



# WEEKLY REPORT

第2580地区 東京豊島東ロータリークラブ

創立/1986年2月19日 (会長)久保 司 (幹事)渡邊 裕之  
 例会場/〒171-8505 東京都豊島区西池袋1-6-1 ホテルメトロポリタン Tel(03)3980-1111  
 事務所/〒171-0021 東京都豊島区西池袋3-33-26-109 Tel(03)3985-7577 Fax(03)3590-6644  
 HP/http://www.toshimah-rc.jp E-mail/info@toshimah-rc.jp

## ◎本日の例会 1173回 2010年11月24日

### クラブフォーラム

卓 話 未来の夢計画のパイロット地区として  
 地区ロータリー財団委員会  
 委員 野口眞一氏  
 紹介者 斉藤 直会員

## ◎前回の例会 1172回 2010年11月17日

### 会長報告

- ① 当東京豊島東ロータリークラブの定款細則を一部変更したいと思っております。掲示板に掲げるとともに、お手元に配布いたしますので、ご検討ください。  
 12月8日の総会でご賛同をいただきたいと存じます。
- ② 地区青少年交換委員会から忘年会の案内が来ています。当クラブの澤田青少年交換委員会に出席をお願いしようと思っております。

### ■ゲスト

日経ウーマン編集長 麓 幸子様

### ■ビジター

板橋セントラルRC 船橋昌子様

### ■出席報告

会 員	出席率 参入 会員数	出席数	欠席数	出席率	10月27日 分修正 出席率
42名	36名	26名	10名	72.22%	88.89%

## ニコニコ BOX

稲川会員／本日午後、豊島区の納税表彰式で豊島税務署・署長表彰を受けることになってしまいました。理由は良くわからないのですが・・・  
 島田さんと一緒に行ってきます。  
 島田会員／今日の例会後に、豊島税務署長より感謝状を頂けるとの事で、なぜかわかりませんが行って来まあ～す！！  
 久保会員／先週は突然の早退で御迷惑をおかけしました。  
 佐々木会員／火曜会がメジャーに？！



## ◎次回の例会 1174回 2010年12月1日

卓 話 食品衛生の変遷  
 ---昔の考え、今の考え---  
 株式会社フードサイエンス  
 所長 椎名 治氏  
 紹介者 島田謙司会員

## 12月の例会スケジュール

12月 1日[1174]	理事会 例会	11:30~12:00 12:30~13:30
12月 8日[1175]	例会 年次総会	12:30~13:30
12月15日[1176]	忘年夜間例会(家族会) 受付開始 例会 懇親会	17:30 18:00 18:20
12月22日[1177]	例会 卓 話 香道、香木について 千歳香料株式会社 社長 鈴木義治氏 紹介者 村中秀朗会員	12:30~13:30
12月29日	特別休会	

## クラブニュース

- 米山奨学生・指導教官カウンセラー3者懇談会  
 開催日時／11月18日(木) 17:00~20:30  
 場 所／ハイアットリージェンシー東京  
 出 席 者／高崎カウンセラー
- 東京小石川RC創立40周年記念コンサート・記念パーティー  
 開催日時／12月 5日(日) 15:00~  
 場 所／文京シビックセンター  
 出 席 者／前川PG 久保会長 渡邊幹事



## 女性の元気がニッポンを変える

日経ウーマン

編集長 麓 幸子氏

男女雇用機会均等法から 25 年。四半世紀たち、「女性が働く」ということが今大きな変革期を迎えているように感じる。いろいろなところで変化の兆しを感じるのだ。

まずは企業である。日経ウーマンでは、「女性が働きやすい会社ベスト 100」（企業の女性活用度ランキング調査\*08 年）という独自調査を実施しているが、それでは、95%の企業が「女性活用が企業の業績向上につながる」と回答している。実際、回答 416 社の ROA（総資産利益率）を見ると、女性活用を推進する企業ほど収益性が高いという結果が出た。

男性社員だけが登用され、長時間労働を良しとするような旧守的な環境では、市場の多様化に対応できず、収益性の高い商品やサービスは生まれにくい。先駆的な企業は女性活用を経営戦略と考え、女性登用や女性の活躍推進、就業継続のため人事施策を取り、すでに大きな成果を上げている。主婦や母親という自身の豊富な生活経験や多様な価値観をビジネスに結びつけ、ヒット商品を作り出し企業収益に貢献した例もたくさんある。

“頭のいい企業”は、不況下だからこそ、どんどん女性活用を進めて生産性を上げ収益を改善し、そうでない企業は停滞したままという二極分化が進むのではないだろうか。

2 つめは、国の変化である。日本は長らく、“男は仕事、女は家庭”という性別役割分業に基づいていろいろな政策を進めてきた。しかし 07 年に政府は、長時間労働是正や少子化等々の課題を解決するため、「ワーク・ライフ・バランス憲章」を策定した。その結果、政策策定の世帯モデルは片働きから共働きへと大きく変わった。今年度は法を改正し、男性が育児参加しやすいように環境を整えた。“男も女も仕事も家庭も”という男女共同参画社会は今後も進むであろう。

そして 3 つめは、女性たち自身の変化である。リー

マン・ショック以降、働く女性たちの意識は大きく変わった。派遣切り、リストラ等々で自分たちの職場から実際人が去るのを見て、強烈的な危機意識を持つようになった。シングルの女性たちにとって職を奪われることはそのまま生存の危機につながる。彼女たちの頭には、かつてあった寿退社というプランはない。好むと好まざるにかかわらず働き続けなくてははいけない。職を確保し続けるために戦略を立てなくてははいけない……。

ピンチによって働く女性たちのキャリア意識はかえって高まっている。現在は、出産を機に 6 割以上の女性が職場を去るものの、保育園等育児支援策が整備されれば、その割合はもっと下がるだろう。

企業が女性の活躍推進のためにやるべきことは女性のさらなる意識改革ではないだろうか。海外の女性に比べて日本の女性は控えめで、自分の能力をたいそう低めに見積もる傾向があるように思う。大変そうだからと管理職昇進に抵抗がある女性もまだ多いようだ。社内外のロールモデルたる女性管理職たちの事例を紹介する、職務能力を向上するためのキャリア開発の研修をする、メンター制度や社内の女性の横断的なネットワークを設ける等々検討すべき施策はたくさんあるはずだ。女性が持っている価値や能力の最大化は、今後の企業の大きな課題となるであろう。

【『企業と人材』2010 年 6 月号より】

\* 調査概要 日経ウーマン編集部が行った 2008 年版企業の女性活用度ランキング調査は東証・大証・名証の 1~2 部の上場企業、および外資系企業を含めた有力非上場企業 3969 社を対象。調査は日経リサーチが実施、調査票を送付した。調査データは 08 年 1 月のもの。有効回答数は 416 社（有効回答数 10.5%）

（プロフィール）

1962 年秋田県生まれ。84 年筑波大学卒業。同年日経ホーム出版社（現・日経 BP 社）入社。88 年「日経ウーマン」創刊に携わる。以後、主婦向け月刊誌「ショッピング」、エコロジー雑誌「日経エコ 21」、日経ウーマン別冊「ココカラ」編集部等を経て、03 年より「日経ウーマン」編集部に移動。06 年より現職。一男一女の母でもある。09 年より筑波大学非常勤講師も務める



ロータリー財団月間

11 月はロータリー財団月間です。「毎年あなたも 100 ドルを」の推進活動を通じた年次プログラム基金へのご支援により、財団はこれからも「世界でよいことをしよう」の標語を実践し続けていくことができます。